

めぐみイエス・キリスト教会

2019年9月1日(日)第一主日礼拝
週報「通算第471号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年9月1日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌341 「恐れなく近寄れ」 p. 542

【交読文】 No.41 詩篇第127篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌467 「世の終わりのラッパ」 p. 752

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.16 「神の都へ」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章6節～11節(新約p. 201上段)

【祈 禱】

【説 教】 《権威とは?》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書19章6節～11節】

19:6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ。」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」

19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」

19:8 ピラトは、この言葉を聞くと、ますます恐れた。

19:9 そして、また官邸には行って、イエスに言った。「あなたはどこの人

ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。

19:10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」

19:11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたには私に対して何の権威もありません。ですから、私をあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

●ポイント1. ユダヤ指導者たちの主張とは？

※マタイの福音書26章63節～66節「大祭司カヤパの尋問」(新約p.53上段)

●ポイント2. 「あなたはどこの人ですか」とピラトの質問の意味は？

※マタイの福音書2章23節「この方はナザレ人と呼ばれる」(新約p.3上段)

2:23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就するためであった。

※ヨハネの福音書19章19節～20節「主イエスの罪状書き」(新約p.202上段)

19:19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス。」と書いてあった。

19:20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。

●ポイント3. 「権威」とは？

※第 I ペテロ2章13節～14節および17節「ペテロの勧め」(新約p.417下段)

2:13 人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、

2:14 また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。

2:17 全ての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。

※ローマ人への手紙13章1節「パウロの勧め」(新約p.284上段)

13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。

◎先週のメッセージの概要【さあ、この人です。】

《「ポンテオ・ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。」とヨハネは書き記しています。ピラトは群衆が気に入るようにと、そのようにしたわけですが、実はこのことも、神様の深い摂理の中において行なわれたのです。

イエス様は、十二使徒に「受難予告」を三度もされ、はっきりとご自身が十字架にかけられること、そしてむち打たれることを、預言しています。

また「イザヤ書53章」には、「彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」と書かれ、メシヤが「むち打たれる」ことが、明確に預言されています。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」これは、イエス様が無実であることを、父なる神様がピラトを通して語らせたのです。

ペテロは、イエス様がこの場面だけでなく、その生涯においても罪を犯したことがないことと、その口に何の偽りも見い出されないことを証言しています。

ピラトは、血だらけとなり、いばらの冠を頭にかぶり、紫の衣を身にまとったイエス様を、群衆の前に突き出しました。「さあ、この人です。」と。

ここでも「イザヤ書53章」の預言が成就します。「彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、慕うような見ばえもない。彼は人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。」と。「さあ。この人です。」

実は、これは軽蔑した物言いなのです。しかし、父なる神様は、過越の祭に集まった四十万人のユダヤ人たちが、見るべきお方こそ、この人であることを教えておられます。イエス・キリストこそが、すべての人が見上げるべきお方です。このお方こそが救い主で、「私はある」と言われた創造主なのです。

『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。』

この世におかれている私たちには艱難があると、イエス様は言われます。私たちが悩み苦しみ、そして落ち込む時には、決まって私たちの目が、イエス様の御顔から離れている場合が多いのです。「しかし勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。」私たちは常に、このお方を見るべきです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は9月8日です。通常通り、行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、9月11日(水)に行ないます。鈴木牧師は9月2日(月)～4日(水)まで東京神学校長崎研修に参加します。4日(水)の祈り会はお休みします。